

# 四半期 成長率

## とチャート分析

結喜たろう【著】

YUKI TARO

北山広京【監修】



---

## まえがき

### あなたの株式投資のトータル収益はプラスですか？

僕は株を始めてから10年間、マイナスでした。

僕が株式投資を始めたのは1999年末です。当時ITバブルの過熱期でいきなり資産2倍になりましたが、すぐにバブル崩壊の洗礼を受けて、利益をすべて吹き飛ばします……。

2003～05年、小泉政権の上昇相場で再び大きく利益を出して喜ぶも、今度は2006年ライブドアショックで、またしても利益（それもン千万円）を吹き飛ばします……。

しかも、ここから、まったくと言っていいほど「勝てなくなる悪夢」が続きました。まるで呪われているようでした。

あるとき「そもそも、なんで勝てないんだろうか」と考えました。そして、過去の売買記録を何度も何度も見直しました。

ここでようやく、「これじゃ、勝てるわけないか…」と気付いたのです。それからというもの、様々に試行錯誤しました。

ようやくコツがつかめてきたのが、2009年ごろ。この年から劇的に変わりました。トータル収益は毎年プラスを維持するようになります。

そして、2012年末――。

日本株は大きく上昇を開始します。2021年までの8年間で日経平均は3倍以上です。その間、僕の利益も大きく上昇しました。

成功者として、いくつかの雑誌で紹介されたり、ラジオ番組に呼ばれたりもしました。新しいことを学ぶ機会もたくさんあり、僕の投資スタイルはますます洗練されたと思います。

世間では、株式ブームが続いています。日本政府も積極的に金融投資を呼び掛けています。

### 【免責事項】

※本書で掲載しているサンプルは教育的な目的において紹介しています。

本書およびサンプルに基づく行為の結果発生した障害、損失などについて著者および出版社は一切の責任を負いません。

※本書に記載されているURLなどは予告なく変更される場合があります。

※Excelは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※TradingViewは、米TRADINGVIEW, INC.の登録商標です。

※本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標および登録商標です。

ところで、この長らく続いた上昇相場でも、トータルで利益を出している個人は、1割ぐらいと言われているようです。これほど日経平均が上げたのに、どうしてでしょうか？

さらに市場全体が軟調になると、個人投資家はさらに勝てなくなります。

僕はよく投資関係の集まりなどに顔を出したりするのですが、「勝てない」という人とお話をすると、ほぼ全員が、昔の僕と同じような過ちを犯していることに気が付きました。

僕が勝てなかった理由は次のようなものでした。

- ・上がらない株を買う
- ・天井で買う、大底で売る
- ・有り金いっぱい買う

当たり前ですが、これでは勝てませんよね。

これらのことを1つでも繰り返していると、たとえ株価指数がどれだけ上昇したとしても、最終的なトータル利益はマイナスになります。

もし、あなたも同じような原因で悩んでいるとしたら、この本は、それらの失敗に対して、適切な解決方法を示してくれるでしょう。

さて、一口に株式投資といっても、たくさんのやり方があります。この本の投資スタンスは、基本3か月程度の保有、長くても7、8か月です。年単位の長期投資はしません。

これには理由があります。

まず、投資のベースとなる日本経済そのものが1997年以降、ほとんど成長していません。そんな状態で、長期投資もなにもありません。

さらに現在は、株価の動きは極端に早くなっています。AIやアルゴリズムを使った大口の取引、イナゴと呼ばれる個人の短期投機資金

などの影響でしょうか。以前なら、数年かけてじっくり上げた企業の株価も、あっという間に織り込まれてしまいます。その結果、数か月で天井をつけて下落という相場になることが多いです。

よく聞く話ですが、「結構な含み益だったのに長期で保有していたら、買値に戻ってしまった」こんな悔しい経験はありませんか？

これを避けるためにも、1つの売買を数か月以内で完結させるスタイルが最適かな、と思っています。

例えば、前述したアベノミクス相場において、日経平均は8年で3倍になりました。この期間、日経平均に連動した投資信託を保有していれば8年で3倍に増えたことになります。ただ僕は、8年かけて3倍になる銘柄を探すよりも、1年で3倍になる銘柄を探す方が楽です。少なくとも、年に1回そういう銘柄を当てられればよいわけですから。

手法については、デイトレのように画面に張り付く必要はありません。昼間仕事をしているサラリーマンでも、充分に対応可能なやり方です。

帰宅後に日足ベースで株価をチェックすることで充分だと思います。僕自身もほとんど日足の「始値」と「終値」で売り買いをしています。

この本の目的は、あなたが株式投資で確実に利益を出して、保有資金を何倍にも増やすことです。僕は、そうなるまでには10年かかりました。しかし、あなたまで10年かける必要はありません。

この本の中に、利益を出すのに必要なエッセンスは、ほぼ入れ込んであります。「株でとにかく勝ちたい、利益を出し続けたい」という人は、ページをめくり続けてください。この本は、「あなたの努力に、利益という結果」で報いてくれるはずです。

2023年6月

結喜 たろう

まえがき 1

## セクション1 基礎編

### 序章 なぜ、株式投資は上手くいかないのか？ 9

- 本編に入る前に…… 10
- なぜ私が買うと下がって、売ると上がる？ 10
- 投資ルーティンと基本スタンス 19

### 第1章 私の投資ルーティン 21

- 1-1 手順①：銘柄を探す 23
- 1-2 手順②：成長性を調べる 37
- 1-3 手順③：チャート波動の分析 52
- 1-4 手順④：戦略シナリオの作成 65
- 1-5 手順⑤：数回に分けた買付け 73
- 1-6 手順⑥：数回に分けた利確 81
- 1-7 ルーティン補足と売買テンプレート 94
- 1-8 ルーティンまとめ 100
- コラム 株式投資に必要な3つのこと 104

### 第2章 成長率のファクター 107

- 2-1 一般的な前年同期比 109
- 2-2 四半期成長率とは？ 112
- 2-3 ファクターの有効性をどう判断するか？ 117
- 2-4 PER、PBR、ROEは使えるのか？ 125
- 2-5 四半期成長率の有効性を確認する 140
- 2-6 中・大型株、小型株、新興株の違い 145

- 2-7 東証新区分による5分位分析 148
- 2-8 ローゼンバーグ方式の年成長率 153
- 2-9 四半期成長率のチュートリアル 155
- コラム 四半期成長率はどこから生まれたのか？ 167

### 第3章 チャートの波動 169

- 3-1 まず押さえておくべきこと 171
- 3-2 価格の波動：突破（ブレイク） 178
- 3-3 価格の波動：天井と底 185
- 3-4 価格の波動：トレンドラインとチャネルライン 193
- 3-5 価格の波動：押しと戻し 208
- 3-6 価格の波動：保ち合い 211
- 3-7 価格の波動：倍返し 218
- 3-8 時間の波動：支配的サイクル 221
- 3-9 時間の波動：1年、2年、3年、7年 229
- 3-10 時間の波動：30日、60日、90日 232
- 3-11 時間の波動：サイクルと日柄の応用 236
- 3-12 TradingViewを使ったチャート波動の分析 247
- コラム 相場の千里眼 259

### 第4章 ポジションと資金の管理 261

- 4-1 投資資金を決める 263
- 4-2 証券口座と銀行口座 265
- 4-3 ポジションの管理 270
- 4-4 信用取引について 274
- 4-5 結局は、メンタルの問題 280
- 4-6 攻撃的な複利運用 282
- コラム 危機的状況に陥らないために 289

## セクション2

## 実践編

### 第5章 実際の売買履歴 293

- 5-1 歴史的な立ち位置を知る 295
- 5-2 地合いの読み方と先行指標 302
- 5-3 市場テーマとリーディングストック 310
- 5-4 実例① 3856 Abalance 316
- 5-5 実例② 2121 ミクシィ (思惑相場編) 366
- 5-6 実例③ 2121 ミクシィ (業績相場編) 392
- 5-7 実例④ 6258 平田機工 436
- 5-8 補足 空売りについて 476
- コラム 投資とリズム感 488

あとがき 490

# 基礎編

# なぜ、株式投資は 上手くいかないのか？

本編に入る前に……

なぜ私が買うと下がり、売ると上がる？

投資ルーティンと基本スタンス



## 本編に入る前に……

この章は導入編です。最初に、「なぜ、株式投資は上手くいかないのか？」その原因についてお話ししたいと思います。

株式投資は10人中9人が失敗すると言われますが、もし、あなたが上手くいっていないのであれば、遠回りに思ってもまずは、ここで書いている内容に自分のこれまでの投資が当てはまるかを考えてみてください。

特に本章と次章では、この本で伝えたい内容をギュッと濃縮しています。第2章以降を読み進めていく中で、もし迷子になったら、ここに戻ってきてください。そして、そもそも「何を、何のために学んでいるのか？」を再確認してみるとよいでしょう。

続く第1章では、僕が実際に行っている投資ルーティンを参考としてご紹介します。あなたがまだ、株式投資において決まったやり方を見つけていなければ、また、なんとなくのやり方に自信をもてない場合には、試しに僕の手順を真似してみてください。売買に再現性を持たせるために、売買をテンプレート化したものも載せています。

## なぜ私が買うと下がり、売ると上がる？

株式投資で、こんな経験がありませんか？

---

上がると思って買った株。ところが、買ったとたんにとんども下がり始めた。「なんで!？」と思いながらも、下げに耐え続けるが、さらに株価は下げていく。「頼むから戻して!」と祈るように願うも、一

向に下げ止まらない。耐えられる含み損も限界に来たとき、「もうダメだ!」と吐き気すら覚えながらようやく損切り。すると、それを待っていたかのように株価は底を打ちし、するすると上がっていく。

まるで、市場があなたをカモにしているかのように……。

損切りしたあと株価は反転し、どんどん上昇していく。そこで慌てて買い戻した。当然、損切り価格よりも高値で。ところが株価はまたしても、買い戻したところを天井に下げ始めた……。

結局、最初に損切りをした価格か、それより下で、もう一度損切りをするハメになる。

この展開にしばらく呆然としてしるが、それが収まってくると、「こんな株、二度とさわるものか!」と怒りがわいて、パソコンの取引画面を閉じる。

ようやく怒りや落胆も収まり、その株のことをすっかり忘れた数週間後、「そういえば、あの株はどうなったんだろう?」とチェックしてみると、驚いたことに、最初に買ったときの2倍の価格にまで上昇していた。

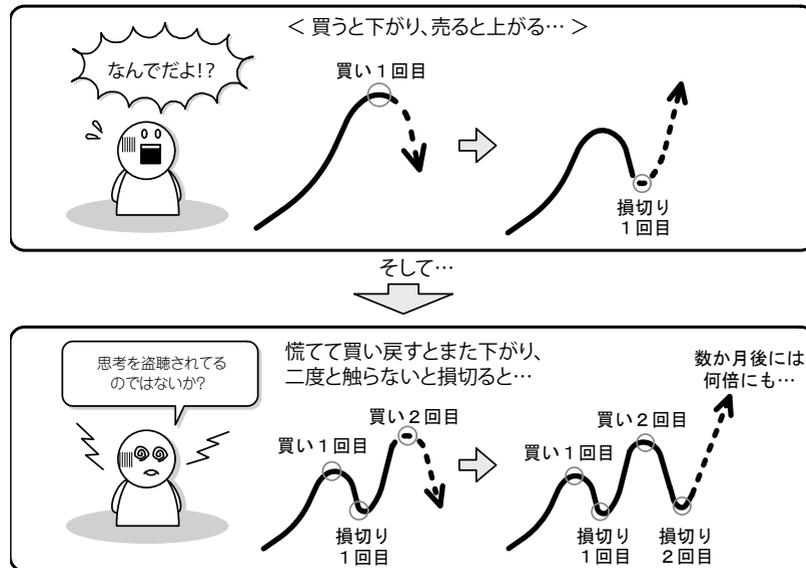
最初にあたふたと慌てふためいた売買をしなければ、投入した資金は2倍になっていたはず。代わりに残ったのは、ものすごい自己嫌悪だけ。

---

この話、トレード経験者であれば「あるある!」と、うなずくのではないのでしょうか？ もちろん、僕も何度も経験しました。悔しさのあまり、コーヒーカップをたたき割ったこともあります。

笑えない話ですが、トレーダーの中には「自分の思考が盗聴されている」と思いこむ人もいます。でも、その気持ちはよくわかります。なにしろ自分のポジションと逆をいくタイミングが、絶妙だったりするのですから。

買うと下がり、売ると上がる・・・



か？ 誰かに勧められたから、雑誌に書いてあったから、株式サイトのの上昇ランキングに載っていたから、などいろいろあると思いますが、要するに「なんとなく上がりそうだから買った」というパターンです。よく分からない銘柄だから、上がったり下がったりする理由もよく分からない。よって、自分のポジションに自信が持てずに結局、右往左往してしまうのです。

株は人気投票です。

人気のある銘柄は、同業他社よりも割安であったり、割高であっても将来にわたって高い成長性を期待させたりするものです。

例えば、ここに500円の株があるとします。これが本来1,000円の価値を持つものだったらどうでしょう。あるいは、いずれ大きく値上がりすると分かっていたらどうでしょうか。当然、人気が出ますよね。つまり「人気がある理由」を、ちゃんと理解してないとダメなわけです。理解していれば、500円で買った株が仮に400円に下がったとしても、いずれ1,000円になるという確信につながり、保有し続けることができます。

また人気があるということは、その株に、上昇を期待させる「何らかの優位性がある」ということです。では、どうすれば優位性のある銘柄を探せるのでしょうか？

ちなみにその優位性、あなたはどのようにやって探っていますか？

それにしても、なぜこのようなことになるのでしょうか？

それには3つの理由があります。

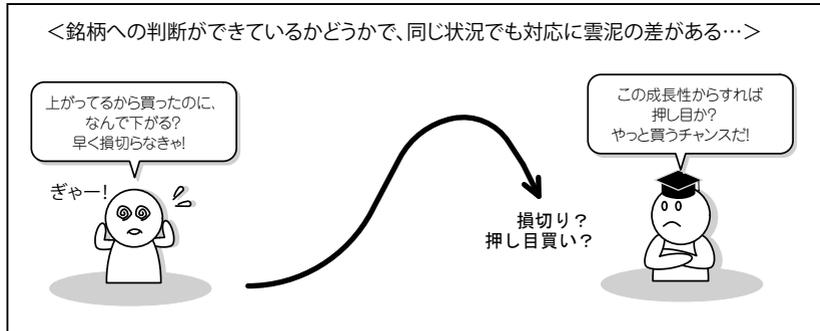
- ①銘柄の判断ができていない
- ②売買タイミングを分かっている
- ③ポジションを取りすぎている

理由が分かれば、その適切な対策を立てることで、先の状況を回避できます。では、3つの理由をそれぞれ詳しく考えてみましょう。

### ①銘柄の判断ができていない

よく分からないけれど買ってしまった、という経験はありません

## 銘柄をどう判断するか？



通常は「業績の良さ」や「割安」だと判断したものに注目しますよね。その際によく参考にされるのが、「投資指標」と呼ばれるものです。代表的なものにPER（株価収益率）やPBR（株価純資産倍率）、ROE（自己資本利益率）、時価総額などがあります。これらの良し悪しは株価に影響を与え、そういったものを「ファクター」と呼びます。業績から計算する前年比や配当利回りなどもファクターです。

ファクター = 株価に影響を与える指標

ここまで読まれて、「なんだ、結局、低PERや高ROEのものを探して買えっていう、よく聞く話か!？」と思われたかもしれませんが、全然違うので安心してください。順々に解説していきます。

よく証券会社のサイトに「スクリーニング機能」ってありますよね。低PERや高ROE、あるいは乖離率といった条件で検索すると、それに合わせた銘柄を上位から表示するものです。しかし、そもそも、なんでそんなことをするのでしょうか？

それは、「PERの低いものほど、ROEの高いものほど、株価が上がる傾向がある」と思われているからです。要するに、PERやROEといったファクターが有効である、という前提でスクリーニングされて

いるわけです。

では、そもそもスクリーニングの対象にしている、それらファクターが「本当に有効」なのでしょうか。つまり、本当にPERの低いものを買えば上がるのか？ ROEの高いものを買えば上がるのか？と気になって当然です。それらについては実際に、第2章で細かく調べていますが、気にならないという方は飛ばして結構です。

さて、スクリーニングで上位に出てきた銘柄ほど、「本当に」株価を上げる可能性が高ければどうでしょうか。その場合、それはとても有効なファクターと言えますよね。つまり銘柄の良し悪しを判断するには、「有効なファクター」を見つけだし、参考にすればよいのです。

本書では、僕が株式投資で利益を出せるようになったきっかけであり、しかも長年使い続けている中で「有効性が高い」と判断できたファクターをご紹介します。

実際に僕自身が成果を上げられているので、とても残念に思っているのですが、この「ファクター」は、個人投資家には殆んど知られていないと思います。恐らく、この本で紹介するのが最初ではないでしょうか。なので、せっかく本書を手にとってくださいました皆さんには、その有効性をしっかりお伝えしたいと思っています。後章で具体的に説明しますので、楽しみにしててください。

ファクターを知ること、あなたの投資パフォーマンスは相当に改善されるはずです。僕がそうであったように……。

## ②売買タイミングを分かっていない

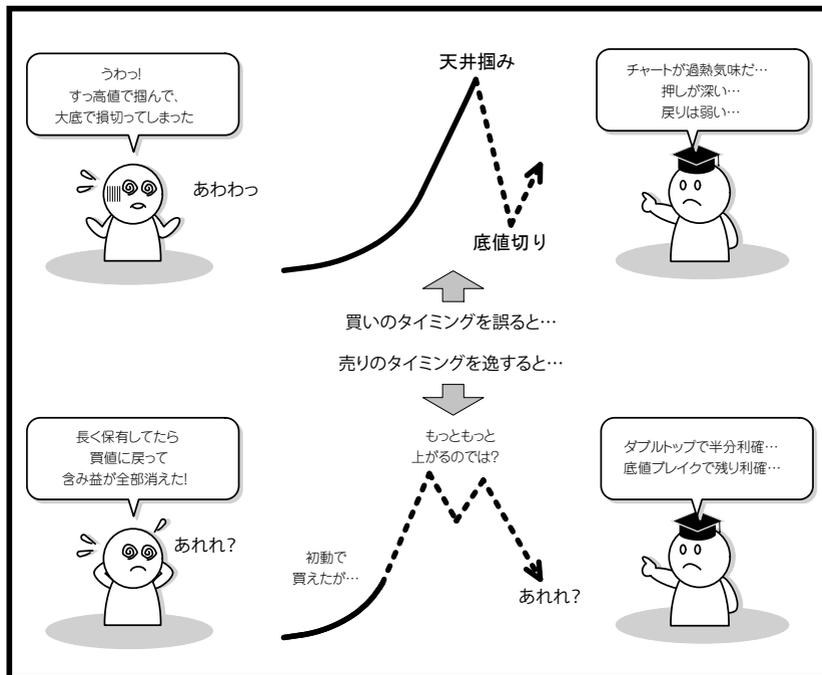
株価というものは、一本調子では動きませんよね。どれほど成長性の高い銘柄だとしても、株価は上がったたり下がったりと波のような動きをします。結果的には大きく上昇した銘柄でも、買うタイミングを誤ったために全然利益が出せなかった…ということもあります。

株価は短期から長期にわたる材料や、刻々と変化する地合いによって、複雑な動きになるからです。

タイミングを誤ると、いくら上がる銘柄だと確信していても、買った途端に含み損を抱えるといったシンドイ思いをします。上がる株を上がるタイミングで買うというのが理想ですが、そう容易ではありません。それを探るために、「市場心理」というものを理解しておきましょう。

市場心理という難しい話に聞こえますが、それが見てとれるものがあります。株価チャートです。チャートが右肩上がりであれば強気であり、右肩下がりであれば弱気の心理を示します。そこで、巷にはチャート分析の情報や指標があふれているのです。

売買タイミングを誤ると・・・



本書ではチャートの動きを波と見立てて、「チャートの波動」という視点でチャートを分析します。チャート分析というと、過去のチャートに様々な線を引いて、「この時は、こうすればよい、ああしなきゃならない」となりがちです。そうなる「そりゃ、あとからなら何とでも言えるでしょ」となってしまいます。これじゃ使えません。

いくら過去を精密に分析できても、「未来を予測できなければ、なんの意味もない」のです。チャートは「単なる絵」ではありません。チャートは「波」です。常に動いているのです。

サーフィンをやったことがある人はイメージしやすいかと思いますが、上手い人は今の波の動きを見ながらも、次にその波がどう動くかを常に予測しています。そして波の変化に合わせて、ボードの向きや角度を常に調整しています。

株式投資もそれと似ています。株価という波を乗りこなすためには、「これまでの波の動き」を見て、「次に来る波の動き」を予測します。チャートの波動とは、未来を予測する分析です。波動を理解すれば、底値付近で買うことや、当面の高値付近で利確できる可能性が高くなります。なお、チャートの波動の具体的なものについては、第3章で詳しくお話しいたします。

### ③ポジションを取りすぎている

実はこれ、一番重要なポイントだと僕は思っています。

ポジションとは、保有している株のことですよね。どれだけ適切な銘柄を探し出せても、どれだけ適切な売買タイミングを掴めても、自分の資金量に見合わない量の株を保有していると、ほぼ間違いなくメンタルをやられて失敗に終わります。

例えば、あなたの全財産が100万円だったとします。その全てを投入して株を買った場合、株価が下落したときに、ものすごい恐怖を感じ

じるのはイメージできますよね。信用取引ならば口座資金の3倍まで株を保有できるため、もし100万円の資金で300万円分の株式を保有して、株価が3分の1にでも下がってしまったら……。もう絶望、破産です。そんな人はいないと思うかもしれませんが、実際に聞く話なんです。

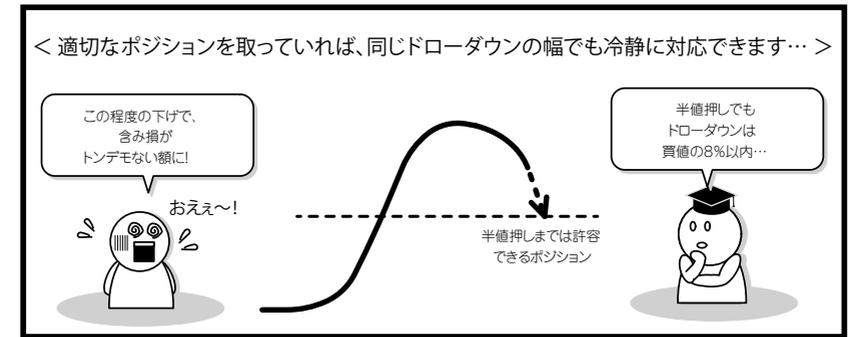
破産までいなくても、ちょっとした株価の上下でハラハラと感情の乱れが出てしまい、仕事も手につかなくなります。特に小型株や新興株は、動き出すと短期的に乱高下をします。結果的に株価の動きに振り回されて、「上値買いの底値売り」をしやすくなります。

逆に、100万円のうち50万円ぐらいを株式トレードに回した場合はどうでしょうか。極端な話、投資分の50万円が半額になっても25万円の含み損、その時点で損切りをしても75万円、つまり全財産の4分の3が残ります。十分やり直しの効く額が手元に残るわけです。

急がば回れといいますが、短期間で一気に金持ちになろうとするよりも、無理をせずに着実に利益を出そうとする投資家の方が、長い目で見れば成功していることが多いです。

「どのくらいの資金で、株を保有すればよいのか」ということも銘柄選定やタイミングと同じぐらいに重要です。このことは、「**資金管理** (マネーマネジメント)」などとも呼ばれていますが、根底にあるのは精神 (メンタル) の管理だと思ってください。自分の心の具合をしっかりと管理するためにも、資金をどう投入してどのように運用するかが大切になります。

## ポジションの運用と管理はメンタルに直結する



これらのことも実際の売買例などを用いて、あとの章で実践的に説明したいと思います。たまに信用レバレッジを最大までかけて勝負に出て大成功する人もいますが、そういう人は本当にごく稀だと思ってください。投資においては、運によって儲けたお金は必然によって失くします。

ポジションの効果的な運用と管理法に関しては、第4章でお話します。

## 投資ルーティンと基本スタンス

失敗する原因3つについて、それぞれお話ししました。成功するためには、その3つをそれぞれ1つひとつを潰していけばよいわけです。

そのための解決方法として本書では、「有効なファクター」「チャートの波動」「ポジション管理」について紹介していきます。ですが、その前にまず、次章で僕自身が普段用いている投資ルーティンを紹介させていただきます。

すぐにでも知りたいと思われるかもしれませんが、本書でお伝えす

るやり方や知識が、実際の売買でどのように活かされているのかを先に知っていただくほうが、各章の解説に関して、全体像をより掴みやすくなると思うからです。

では、次章からより具体的に解説していきます。